

理工学部コース横断 修士中間発表 2023

2023年4月24日 17:00～

@フォーサイト 301

講演時刻 /発表時間・質疑・交代	講演 番号	講演題目 /発表者@専攻名・所属研究室 【座長は所属研究室内の教員をお願いします】
座長：友野		
17:00-17:12 /7分・4分・1分	1	安価な3軸合成FFTを用いたベアリングの損傷検出頻度の検証 /今井 祐樹 (いまい ゆうき)@先進機械・堀田研究室
17:12-17:28 /12分・3分・1分	2	マゼランペンギンのTRPV1の解析 /内田 千尋 (うちだ ちひろ)@生命科学・海老原研究室
17:28-17:38 /7分・2分・1分	3	異鎖長の脂質で被膜下金属錯体を有する層状MnO ₂ の電気化学特性の比較 /大川 諒輔 (おおかわ りょうすけ)@応用化学・友野研究室
17:38-17:59 /10分・10分・1分	4	敵対性構造を用いたStable Diffusionのプロンプト生成システムの開発 /コセイ (こせい)@情報ネット・高橋研究室
17:59-18:15 /12分・3分・1分	5	ケヅメリクガメの酸味受容体OTOP1の変異解析 /紺谷 匠 (こんや たくみ)@生命科学・海老原研究室
18:15-18:25 /7分・2分・1分	6	層間Ru(bpy) ₃ 錯体によるMnO ₂ 薄膜の作製と水素生成 /瀬沼 愛佑梨 (せぬま あゆり)@応用化学・友野研究室
18:25-18:41 /12分・3分・1分	7	微細藻類 <i>Tisochrysis lutea</i> (T-Iso株)における形質転換系の最適化 /徳江 快斗 (とくえ かいと)@生命科学・新家研究室
18:41-18:56 /12分・2分・1分	8	高速ニッケルめっきにおけるブチンジオールが皮膜に及ぼす影響 /莫凡 (ばくぼん)@表面工学・材料・表面工学研究所(田代)
18:56-19:06 /7分・2分・1分	9	三元系層状MnO ₂ 正極材のマンガン価数制御による充放電特性評価 /花谷 明信 (はなや あきのぶ)@応用化学・友野研究室
19:06-19:21 /12分・2分・1分	10	弱電解処理による無電解NiPめっき液中Znの低減化条件の検討 /松浦 万裕 (まつうら まひろ)@表面工学・材料・表面工学研究所(田代)
19:21-19:32 /7分・3分・1分	11	円筒ころ軸受のラジアル荷重と転動体公転速度との関係 (回転速度4000min ⁻¹ 以下かつ定速の場合) /矢嶋 皓範 (やじま ひろのり)@先進機械・堀田研究室
19:32-19:48 /12分・3分・1分	12	味覚受容体機能解析のための細胞構築 /渡辺 初音 (わたなべ はつね)@生命科学・海老原研究室

【研究室 URL】

生命科学コース

- ・ 海老原研究室 : <https://seimei.kanto-gakuin.ac.jp/mitsuruebihara/>
- ・ 新家研究室 : <https://seimei.kanto-gakuin.ac.jp/hiroyaaraie/>



数理・物理コース

- ・ 中嶋研究室 : [KGU high-energy astronomy group \(kguastro.com\)](http://kguastro.com)
- ・ 船木研究室 : <https://rikou.kanto-gakuin.ac.jp/teacher/218>
- ・ 古澤研究室 : <https://rikou.kanto-gakuin.ac.jp/teacher/232>



応用化学コース

- ・ 友野研究室 : <https://tomonolab.com/>
- ・ 鎌田研究室 : <http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~kg064007/kagaku/cn1/kamata.html>



先進機械コース

- ・ 堀田研究室 : <http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~thotta/index.html>



情報ネット・メディアコース

・高橋研究室：<https://rikou.kanto-gakuin.ac.jp/teacher/228>



電気・電子コース

・石坂研究室：<http://ee.kanto-gakuin.ac.jp/lab05.html>



健康科学・テクノロジーコース

・木村研究室：<http://hst.kanto-gakuin.ac.jp/lab04.html>



土木・都市防災コース

・福谷研究室：<http://yofukutani.com/index.html>



表面工学コース

・田代研究室：

<https://kyouin.kanto-gakuin.ac.jp/public/v2kgr/jpn/ResearcherInformation/ResearcherInformation.aspx?KYCD=00132870>



開催趣旨 (2022年4月1日)

昨今の感染症により、学会はほとんどが「遠隔」となっています。いまだ対面を経験していない学生さんもいるかと思います。遠隔のおかげで移動時間がなくなるというメリットはありますが、デメリットも個人的に多くあると感じています。

◆ ひとつ目に「雑談」があります。以前は、「せっかく来たんだから雑談でもしましょうか。。。｣という感じで、雑談の中から新しい研究プロジェクトが立ち上がったたりもしていました。遠隔の場合、必要な話が終わると「ログアウトする」ため、意識をしないと雑談がなくなっている状況です。

◆ ふたつ目に「受動的情報取得の欠如」です。研究に関係する「学会発表」や「学術論文」は能動的に情報取得しているために最新研究の内容は把握しています。一方、「興味のない発表や論文」に目を通す時間がほとんどなくなりました。以前は、会場で内職したり・ポスター会場などをまわっているなかで、「これ、なに?!」とか「今、こんなに精度があがってるの?!」など、能動的な情報取得では得られない研究を発展させる可能性のある情報を受動的に手にいれることができました。

これらのデメリットの他に、当大学は大学院生が少ないです。他大学は、学科にもよりますが6-7割が大学院に進学します。学部時代に仲良くしていた同級生が1年後の卒研発表で面白い研究をやっていることに驚いたかと思います。大学院の同級生が多いということは、より専門性を高めた同級生が増えるということです。物理的な距離や母校が一緒はメリットです。自分の研究室でできない事が、隣のラボでは当たり前に行っていることが普通にあたりします。また、気軽に聞けるのも物理的距離のメリットでしょう。社会人になって、気軽にメールのやり取りができるのも母校のメリットでしょう。

本発表会を通して、

- ・大学院生同士の交流 (研究の大変さも交流)
- ・理工学部のポテンシャルをコース横断で把握できる(こんなことができるのか!みたいな)
- ・大学院生としても同級生が学内にいるのは精神衛生上よいかと思います。
- ・大学院生としても学内に様々な先生と顔見知りになっておいて損はない。
- ・大学院生にとっても様々な知識を得ることは損ではないはずです。
- ・学生間の柔軟な発想による学科コース横断的な研究プロジェクトの立ち上げです。
- ・学生にとっても横断的なプロジェクト研究は非常によい経験となるかと思います。
- ・当然、研究室に配属された学部4年生の聴講も大歓迎です。(大学院生との繋がりを増やしてください。)

最後に、皆様の研究が大いに面白くなればと思っています。

(理工学部応用化学 友野和哲)